ン（4つのプレナリー・セッションおよび4つのポスターセッションを含む）が設けられ、合計で約1,100件の口頭発表と870件のポスター発表が行われた。また大会組織委員会の主催によるものだけでも、14のサイドイベントやワークショップが並行して開催された。

本研究所からは、林玲子（所長）、岩澤美帆（人口動向研究部長）、菅桂太（人口構造研究部室長）、福田節也（企画部室長）、中川雅貴（国際関係部室長）が参加し、それぞれ研究発表や討論を行った。林所長は、国連人口部が企画した「国連人口推計の方法論的発展と利活用」に関する特別セッションにも登壇した。また、本研究所の参加者は、オーストラリア政府内に2019年に設立された人口分析および政策的活用のための専門機関（Centre for Population）のスタッフと交流を深める機会を設けるなど、大会期間を通じて各国の参加者との活発な意見交換や最新の研究動向に関する情報収集に努めた。

大会の詳細は以下のウェブサイトでご覧可能となっている。<https://ipc2025.iussp.org/>

なお、本大会の閉会式では、次回の第31回大会が2029年7月にスペインのバルセロナで開催されることが発表された。（中川雅貴 記）

統計数理研究所 招待講演

2025年7月29日、統計数理研究所で開催された「諸科学における統計思考」において、「積分投影人口モデルの固有構造」という題目で招待講演を行った。本講演では、積分投影モデル（IPM）の固有構造に関する近年の研究成果を紹介し、とくにFredholm理論に基づく数理的解析が、人口学における安定年齢分布や繁殖値といった概念をどのように拡張できるかを解説した。また、日本の人口動態に即した数値例を示し、数理的な理論枠組みと現実の人口問題を結び付ける重要性を強調した。質疑応答では、参加した統計学研究者や若手の学生から、数理モデルの実証的応用やデータ解析手法の発展に関する多くの質問が寄せられた。本講演を通じ、統計的視点と数理人口学との架橋が今後の学際的研究を推進する鍵となることを示すことができた。（大泉 嶺 記）

APEC 2025 韓国 「人口対応と AI 協力に関する官民対話」

APEC（アジア太平洋経済協力）は、アジア太平洋地域の21の国と地域が参加する経済協力の枠組みで、1989年より閣僚会議が、1993年からは首脳会議が開催されており、今年2025年は韓国が担当国として各種会合を開催中である。今年のテーマは、人口変動とAIであり、10月の首脳会議、8月の第三回ハイレベル会合に合わせ、「人口対応とAI協力に関する官民対話（Public-Private Dialogue: Demographic Response & AI Cooperation）」が2025年8月11日（月）、12日（火）に韓国・仁川の松島コンベンシアにて開催された。

筆者は人口対応に関するセッションのパネリストとして参加し、チョ・ヨンテ ソウル国立大学教授を座長に、スリポン・ブンブン タイ・マヒドン大学人口研究所元所長、トラン・フン・ファイ ベトナム・アジア商業銀行頭取、医療経済が専門のキム・ヒュンチョル韓国延世大学教授と、アジア太平洋の少子高齢化の見通しについて議論した。人口変動とAIは、それぞれ別々のプログラムであったが、人口変動にも若い世代はITやAIなしでは生きていない状況を考える必要性や、人工子宮まで可能性が開けてきたといった生殖補助医療の言及もあり、経済を起点に幅広い視点が登場したことは興味深かった。（林 玲子 記）